

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和元年7月18日

計画の名称	1	JR千葉駅前広場の再生	計画の期間	平成23年 ~ 平成28年 (6年間)	交付対象	千葉市
計画の目標	土地の合理的かつ健全な高度利用を図り、市の玄関口に位置するJR千葉駅前にふさわしい市街地を実現します。					

計画の成果目標 (定量的指標)	①JR千葉駅の乗降者数を212,868人/日から215,000人/日に増加する。 ②JR千葉駅とモノレール千葉駅間の乗換え時間を82(秒)から32(秒)に短縮する。
-----------------	---

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H28末)							
① JR千葉駅の乗降者数を測定する。 (JR千葉駅の乗降者数) = (JR千葉駅の乗車人員) × 2	H21数値 212,868人/日	-	215,000人/日							
② 乗換えに係る所要時間を算出する。 (乗換え時間) = (JR千葉駅からモノレール千葉駅までの移動距離) / (移動速度 (歩行者: 78m/秒、エスカレーター: 30m/秒))	82秒	-	32秒							
全体事業費	合計 (A+B+C)	3,986百万円	A	2,792百万円	B	452百万円	C	742百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	18.6%

事後評価 (中間評価)

○事後評価の実施体制、実施時期	事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
交付対象事業の主な実施部門 (都心整備課) が本事業後評価書 (案) を作成し、ホームページと事業課窓口において2週間公表、意見募集を行います。寄せられた意見を踏まえ、必要に応じて事後評価の見直しを行います。	令和元年6月	公表の方法
		HPでの公表及び事業所管課窓口での掲示

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																
A 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)						全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27	H28		
1-A-1	再開発	一般	千葉市	直接	千葉市	千葉駅西口地区第二種市街地再開発事業	再開発事業区域面積約1.9ha	千葉市							1,920	
1-A-2	都市再生	一般	千葉市	直接	千葉市	千葉駅西口周辺地区都市再生整備計画	道路、高質空間形成施設、高次施設	千葉市							608	
1-A-3	住宅	一般	千葉市	間接	組合	千葉駅東口地区第一種市街地再開発事業	再開発事業区域面積約1.0ha	千葉市							264	
合計														2,792		
B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)						全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27	H28		
1-B-1	道路	一般	千葉市	直接	千葉市	駅連絡機能の強化	北口階段整備 (W=3.25m、L=25m、EV1基)	千葉市							452	
合計														452		
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)						全体事業費 (百万円)	備考
									H23	H24	H25	H26	H27	H28		
1-C-1	施設整備	一般	千葉市	直接	千葉市	駅連絡機能の強化	モノレール連絡通路、雨除け施設	千葉市							742	
合計														742		
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考					
1-C-1	モノレール連絡通路整備により西口、北口、東口各方面相互間の歩行者動線レベルにあわせた鉄道、モノレール駅間のアクセス利便性向上を図るとともに、雨除け施設整備により駅前広場歩行者の利便性、歩行環境の向上を図る。															

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況						
I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> 千葉駅西口の駅前広場や施設建築物の整備により、駅前としてふさわしい土地の利用転換が図られた。 千葉駅周辺における各施設の整備により、駅周辺の回遊性及び利便性が向上した。 				
II 定量的指標の達成状況	指標①（JR千葉駅の乗降者数）	最終目標値	215,000人／日	目標値と実績値に差が出た要因	本計画における事後評価の実施時期は平成28年度であり、当該年度は千葉駅周辺において相次いで大型商業施設等が閉店し、また、西口地区B工区及び東口地区で進められている再開発事業も計画内容及び施工中でありました。これら要因により来街者数が伸びず、本指標においては、目標値に届かなかったものと考えられます。	
		最終実績値	210,410人／日			
	指標②（乗換えに係る所要時間）	最終目標値	32秒	目標値と実績値に差が出た要因	目標値達成	
		最終実績値	32秒			
					目標値と実績値に差が出た要因	
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		—				
3. 特記事項（今後の方針等）						
<p>千葉市で千葉都心全体の将来像や取組みの方向性を明確にするため、「千葉駅周辺の活性化ランドデザイン」を平成27年度に策定しました。</p> <p>千葉駅周辺においては、JR千葉駅の駅舎・駅ビルの建替えが平成30年度に完了し、今後も引き続き、西口地区及び東口地区の再開発事業など駅周辺のリニューアルが進んでまいります。</p> <p>具体的には、西口地区は令和元年度、東口地区は令和4年度に完成の予定となっており、これを契機にまち全体のリニューアルへと繋げていきます。</p>						

計画の名称	1 JR千葉駅前広場の再生	交付対象	千葉市
計画の期間	平成23年 ~ 平成28年 (6年間)		

